

言葉をこえて 伝ええたもの

前 田 翔 平

この一週間という本当に短いと感じる時間の中で、僕は普段の生活では体験することの出来ないことをたくさん体験し、その中でたくさんのもので得る事が出来ました。

体験の中には、カーリングレッスン、小学校訪問、農場や動物園訪問などがありました。こういう体験もとても感動的だったし、思い出に残りました。

しかし、このいくつかの体験よりも、本当にカナダに来て良かったと思ったのがホストファミリーとの交流です。このホストファミリーの人たちとは英語という言葉を通してだけでなく、それを超えて、互いに何か伝え合うことが出来て、とてもいい研修になりました。

1 日目、親と別れ、空港へ行き、飛行機に乗りました。その時も、とても緊張していましたが、それは飛行機が無事、離陸するかどうかの緊張で、まだホームステイの心配はありませんでした。しかし、バンクーバーに到着し、カルガリーへ行く飛行機の中で突然、ホームステイの不安や緊張がこみ上げてきました。「何も話せなかったらどうしよう。」とか「怖い人だったらどうしよう。」などと、いろいろな不安な気持ちがあふれてきました。

そして一時間くらいがたって、とうとうカルガリーに到着しました。そこで、ホストファミリーが待っていてくれました。そして、トランクを降ろし、車に乗りました。車の中で、自己紹介をして 12 歳のチャドとお母さんのジョアンと、チャドのお姉さんのアシュリーからの自己紹介を受けました。でもその時はあまりにも緊張して、"My name is Shohei."としか言えませんでした。そしてその日は部屋を説明してもらってから寝ました。

2 日目、朝チャドが起こしに来てくれました。そこで、"Good Morning."とって、簡単な会話をしました。始めて会ったというのに、友達のように接してくれて、とても話やすかったです。それからスクールバスに乗りました。そこで、チャドに紹介してもらいながら、10 人くらいの子と仲良くなりました。日本では、初めて会う違う国の人に来たら絶対話さないのに、カナダの人は逆に集ってきて、いろいろと話してくれました。その時、「カナダの人たちはとても温かいなあ。」と感じました。

それから間もなく学校に着きました。チャドは手取り、足取り全てのことを教えてくれました。それから、カーリングや日本の紹介などをしてから、ホストの家へ向かいました。またスクールバスの中でもチャドといろいろな話をしました。

そして家ででの時間はとても楽しいと感じる時間となりました。英語は分からないけど、ジェスチャーや、耳が慣れてきて、だんだんと話していることが分かるようになってきたので、とても楽しかったです。チャドとず〜っと一緒にいて、話も出来たし、同じ背なので友達みたいに接したり、単語を何とか組み合わせで少しづつ話すことが出来たので良かったです。

お母さんも本当にやさしくて自分の持ってきた本から文を探して話してくれたりして、「ほんとにいいホストだなあ。」と感じました。そしてそのほかにも、チャドとバスケットをしたり、エレキギターやドラムを弾いたり、マジックをしたりして、チャドのお陰で、どんどんカナダに溶け込めて行くように思えた一日でした。

それから3日、4日と楽しく学校も行けたし、どんどんファミリーとも仲良くなれました。そして学校がない土曜日、日曜日にはいろいろなところに連れて行ってもらったし、2日間ホストファミリーと過ごしたことで、本当の家族のように接してくれるようになりました。

しかしそんな幸せも長くは続きません。とうとう最後の夜になってしまいました。僕はその時、時間が経つことの速さを改めて感じました。そんなことを考えていたら、チャドが僕のために別れのメッセージを書いてきてくれました。そのメッセージの内容がところどころ分かったのでつい泣いてしまいました。そしてその時、英語という言葉を超えて何か熱いものが僕の心に伝わってきました。

そして朝が来ました。車で学校へ向かいました。そしてその車の中で、僕は別れのメッセージを読みました。そしたらみんなが"Thank you."とってくれて、とても嬉しかったです。そのうちに学校に着きました。そしてお別れ会があるというので廊下で待っていたら、チャドがやってきて、チャドの宝物であるミニサイズのスケボーをくれました。"Thank you."と言って泣いて抱き合いました。このとき、本当に言葉を超えたものをこの一週間で築けたと思いました。ホームステイをして、本当に良かったと思っだし、いい時間を過ごすことが出来ました。

ホストファミリーの皆さん本当に有難うございました。皆さんのことは一生忘れません。機会があったら是非日本にも遊びに来てください。

本当に有難うございました。さようなら。

